

# 「雪資源ポテンシャル」という概念に基づく 共創研究の推進

## —雪の持つ「負の側面」と「正の効果」の見える化—

### ■雪資源ポテンシャル

雪は雪氷災害を引き起こしたり、生活の不便さを引き起こすなど負の側面があります。一方で、水資源や観光資源など、地域に恩恵をもたらす正の効果もあります。今までは雪の負の面と正の効果に関して、それぞれ「克雪研究」、「利雪研究」として別々に研究されてきました。

防災科研では、雪の持つ「負の側面」と「正の効果」を含めて雪を資源ととらえ、総合的に雪が持つ資源としての価値を判断する「雪資源ポテンシャル」という概念を提案しています。雪の負の側面を減らす研究はもちろん、正の効果を増やす研究も実施することで、結果的にその地域の雪資源ポテンシャルを総合的にプラスにすることを実現し、地域経済や生活を豊かにする研究を地方自治体や企業等と共創しながら実施しています。



雪資源ポテンシャルのイメージ

### ■地方自治体との共創に基づく地域の魅力向上への取り組みの一例

#### ・国際スキーリゾート・ニセコにおける雪崩事故防止に資する情報プロダクツの創出

北海道ニセコ地域（ニセコ町、倶知安町）は、国立公園であるニセコアンヌプリ山の裾野に、5つの広大なスキーリゾートが広がっています。良質なパウダースノー、広いゲレンデ、バックカントリー等のハイクオリティサービスを提供しており、それを求める国内外からの観光客がたくさん訪れる国際的なスキーリゾートとなっています。

ニセコ地域では、スキー場の雪崩管理を地元の有識者の経験知に頼っていますが、それを継続的に運用するには人材育成や組織的な運用体制確立などの課題があります。そこで防災科研では、地元の自治体やスキー場と協力しながら有識者の雪崩管理に関する思考プロセスを科学技術で見える化を行っています。また、防災科研が生み出す科学的な情報を見える化した情報と組み合わせることで、雪崩管理の高度化や継続的な運用体制の確立に向けた取り組みも行っています。これらを通じて地域のブランド力の向上に貢献することを目指しています。



2019年3月のニセコ町・倶知安町・防災科研間の「雪崩事故防止等の雪氷災害防止の研究」に関する連携協定締結式時の写真。



雪崩管理情報共有システムの表示画面。ニセコ地域における雪崩管理に重要な情報の現況値や予測値をスキー場関係者間で共有できるシステムである。2021冬季からニセコスキー場の雪崩管理に使われている。

